

**「丹後震災１００年記念シンポジウム～丹後震災の記憶
を未来へつなぐ～」
を１１月８日（日）に開催します！**

令和８年１０月９日

京 丹 後 市 役 所

本市では、１９２７（昭和２）年３月７日に発生した北丹後地震（丹後震災）から１００年という大きな節目を控え、当時の甚大な被害やそこからの復興の歩みを振り返り、教訓を次世代へ継承するとともに、市民の皆様の防災意識を高めるため、「丹後震災１００年記念事業」を進めております。

その事業の一つとして、標記事業を下記のとおり開催いたしますのでお知らせします。

記

１ 日 時 令和８年１１月８日（日）１３時００分～１５時００分

２ 会 場 京都府丹後文化会館ホール

３ 主な内容 （１）オープニング（京都府立峰山高等学校 書道部）
（２）基調講演（対談形式）

テーマ：一被災地の現場から学ぶ、未来への備えー

丹後震災１００年の節目に、私たちが今すべきこと

司 会：大阪公立大学 名誉教授 橋爪 紳也 氏

ゲスト：石川県穴水町 参事 北川 人嗣 氏

（３）パネルディスカッション

内 容：第１部

過去と現在を繋ぐ～防災の「強み」と「課題」～

第２部

次世代へつなぐ一歩～私たちが今日から始めること～

登壇者：下記の５人

所属	役職等	氏名
丹後語り部の会	会長	東 哲
京丹後市消防団	女性消防隊長	森口 紀子
いやさかTOKIWA協議会	会長	芦田 重行
京都府立峰山高等学校	２年生	眞柴 篤志
兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科	講師 (博士(理学))	松原 典孝

(4) 関連イベント

パネル展示

- ①丹後震災関連資料の特別展示
- ②石川県穴水町震災の記録
- ③令和８年度 防火ポスター優秀作品の展示

ブース

- ①災害派遣の写真パネル（航空自衛隊第３５警戒隊）
- ②計測震度計の実演、液状化実験など（気象庁 京都地方気象台）
- ③防災用保存食の紹介
- ④防災グッズ、防災資機材の展示
- ⑤防災関連パネル展示、ワークショップ
（山陰海岸ジオパーク推進協議会）
- ⑥消防団の活動展示（京丹後市消防団）
- ⑦防災アプリ・防災資材展示（京丹後市総務防災課）
- ⑧起震車体験（京丹後市消防本部）

4 参加料 無料

5 募集人数・申込方法

（募集人数）５００人程度【事前申込優先・先着順】

（※事前申込みの方を優先してお席を用意します。）

（事前申込方法）市ホームページの専用ページから申込み。

または、申込み先へ電話、メール等にて申込み。

市HP⇒「丹後震災１００年記念シンポジウム」で検索

（事前申込期間）１０月３０日（金）まで

【お問い合わせ・申込み先】

丹後震災１００年記念事業実行委員会事務局
（総務部 総務防災課内）

担 当：永岡

電 話：０７７２－６９－０１４０

FAX：０７７２－６９－０９０１

忘れない、あの日の教訓 備える、これからの未来

～次の100年へ、京丹後市がつむぐ防災の絆～

丹後震災100年記念シンポジウム

～丹後震災の記憶を未来へつなぐ～

参加料
無料

日時

令和8年**11月8日(日)**
13:00～15:00(開場:12:30)

会場

京都府丹後文化会館

事前申込優先(先着500人)

事前にお申し込みいただいた方を優先して、お席をご用意いたします。ご参加を希望される方は、右記のQRコードまたはお電話にてお申し込みください。



事前申込×**10月30日(金) 17:00**

丹後震災とは(被害の概要と実態)

■1927年(昭和2年)3月7日 夕刻の悲劇

北丹後地震(丹後震災)は、1927(昭和2)年3月7日午後6時27分41秒に、京丹後市網野町郷付近を震源として発生しました。丹後半島を南北に走る「郷村断層」と、東西に走る「山田断層」の一部が動いた直下型地震です。

地震の規模を示すマグニチュードは7.3で、断層に近いところは震度6相当の激しい揺れに見舞われました。発生時刻が夕食時であったため、一瞬のうちに倒壊した木造家屋から各地で火災が発生し、被害をさらに大きくしました。

この地震により、丹後全体で3,000人近くの人々が亡くなり、1万棟以上の家が全壊・全焼する甚大な被害となりました。



■日本の「地震学」と「防火運動」の歴史は、ここ丹後から始まった

日本初の「活断層」の発見

丹後震災は、我が国の防災史および学術において非常に重要な転換点となった災害です。

関東大震災(1923年)や北但馬地震(1925年)の直後という時期もあり、全国的に地震研究への関心が高まる中で、多くの専門家による詳細な調査が行われました。

その結果、日本で初めて「活断層」という言葉がこの震災に対して用いられ、日本の地震学の発展に大きく寄与しました。

「全国統一防火運動」のきっかけ

火災による甚大な被害の教訓から、震災から3年後の1930(昭和5)年3月7日に大日本消防協会(現・日本消防協会)が全国統一防火運動を行うなど、我が国の防災史における大きな転換点となりました。



お問い合わせ・
申込先

丹後震災100年記念事業実行委員会事務局
(京丹後市総務部総務防災課)

TEL 0772-69-0140

〒627-8567 京丹後市峰山町杉谷889番地
受付:9:00～16:30



司会

大阪公立大学名誉教授
丹後震災100年記念事業
実行委員会副会長

橋爪 紳也氏

ゲスト

石川県穴水町
参事

北川 人嗣氏



一被災地の現場から学ぶ、未来への備え一

丹後震災100年の節目に、私たちが今すべきこと

プログラム

12:30	開場(関連イベント開始)
13:00	開会
13:01	オープニング (京都府立峰山高等学校書道部)
13:15	会長(市長)挨拶
13:20	基調講演
13:55	全国火災予防運動 防火ポスター表彰式
14:10	パネルディスカッション
15:00	閉会
15:30	閉場(関連イベント終了)

令和6年能登半島地震における穴水町の被害について

令和6年能登半島地震の概要と穴水町の被害

令和6年1月1日午後4時10分に発生した能登半島地震は、マグニチュード7.6・最大震度7を記録しました。穴水町では震度6強を観測し、甚大な被害が発生しました。

人的被害

穴水町:犠牲者 57名(関連死37名含む)
石川県全体:死者 734名(関連死506名含む)、
負傷者 1,277名

住家被害(穴水町)

全壊 496棟、半壊 1,436棟
非住家を含め、計3,900棟以上が半壊以上の判定
(※参考:石川県全体では全壊6,168棟、半壊18,723棟)

その他の被害(穴水町)

・町東部の地域で約1メートルの津波を観測し、一部住宅が浸水
・道路の通行止めや片側規制が多数発生し、完全な修復には「約10年」
かかると推測



石川県穴水町の被害

※被害状況は、令和8年8月31日現在

パネルディスカッション

過去の教訓を学び、能登半島地震などの現実を踏まえ、防災を「自分事」として捉えるパネルディスカッション。語り部、消防、地域、高校生、ジオ(地質)という多彩な視点を持つ登壇者が世代を越えて集い、私たちが今日からできる具体的な一歩を考えます。

第1部

【現状確認】
過去と現在を繋ぐ

パネリスト

- ① 東 哲氏
(丹後語り部の会 会長)
- ② 森口 紀子氏
(京丹後市消防団 女性消防隊長)
- ③ 芦田 重行氏
(いやさかTOKIWA協議会 会長)
- ④ 眞柴 篤志氏
(京都府立峰山高等学校 2年生)
- ⑤ 松原 典孝氏
(兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科 講師(博士(理学)))

高校生の視点から
防災を考えます!

誰も取り残さないように、
日頃の備えと声かけを!

100年前の教訓、
今の私たちに
活かしましょう!



関連イベント

パネル展示

- ① 丹後震災関連資料の特別展示
- ② 石川県穴水町震災の記録
- ③ 令和8年度 防火ポスターの展示

ブース

- ① 災害派遣の写真パネル(航空自衛隊第35警戒隊)
- ② 計測震度計の実演、液状化実験など
(気象庁 京都地方気象台)
- ③ 防災用保存食の紹介
- ④ 防災グッズ、防災資機材の展示
- ⑤ 防災関連パネル展示、ワークショップ
(山陰海岸ジオパーク推進協議会)
- ⑥ 消防団の活動展示(京丹後市消防団)
- ⑦ 防災アプリ・防災資材展示(京丹後市総務防災課)
- ⑧ 起震車体験(京丹後市消防本部)

キッチンカー
もやってくる!



起震車体験

当日のシンポジウムの様子を、
市公式YouTubeで生配信!
会場に来られない方もぜひご覧ください! >>>

